

税金のおかげ

東久留米市立南中学校3年 小田 彩菜

「税金高いなー。」毎年5月になり自動車税の納付書が届く度に父の口をついて出る言葉です。よく母にこぼしていました。正直私には全く関心がなく、自動車税がどのような税金なのかも知らなければ、そもそも税金について考えたこともありませんでした。私にとって税金は、まだまだ先のものという感覚しかありません。関わりがあるとすれば消費税くらいなものです。ただ、その消費税でさえ単に価格の一部であって税金を支払っているという意識はありません。それくらい私にとって、税金は身近なものではないのです。

おそらく私達中学生の大半が「税金イコール公務員の給与」という意識でいると思います。でも、今回自分なりに税金について調べてみると、その使い道が多岐に渡っていることを知りました。「こんなところにも税金が使われているんだ。」そう思うところが沢山あったのです。

例えば、父が文句を言っていた自動車関連の税金で言うと、新車購入時や車検のときに支払う自動車重量税は、主に道路特定財源として一般道路の整備などに使われているということを知りました。そこで頭に浮かんだのがガードレールです。最近よく目にしたニュースの中に、登校する児童の列に車が突っ込み死傷者が出たというものがあります。本当に痛ましい事故だと思えます。もしガードレールがあれば若い尊い命を守ることが出来たかもしれません。新

しく道路を作ることも必要ですが、この税金がもっと交通弱者の安全のために使われればいいと思います。

もう一つ、私が知ったことに大気汚染医療費助成制度というものがあります。私は幼い頃から喘息を患っています。そして今でも薬を服用し続けています。でも病院や調剤薬局でお金がかかることはありません。今回、税金のことを調べるにあたって、母が東京都には大気汚染医療費助成制度というものがあり私が18歳になるまでは喘息に関わる医療費がかからないことを教えてくれました。これは、喘息の原因として大気汚染もその一因と考えられることから、財源として自動車メーカーの負担や自動車税もあてられているそうなのです。

このように、私は随分税金の恩恵を受けているのだと知りました。そして税金が様々な形で私達の生活に活かされているということを学びました。税金にはどうしてもマイナスのイメージがあります。でもその使い道によって私達の印象も大きく変わっていきます。是非、貴重な税金を無駄にすることなく、ガードレールや医療費の助成のように有効に使ってもらいたいと思います。

そして来年、自動車税の納付書が届いた時に、また同じことを口にしたら父に言ってあげようと思います。「パパが払う自動車税のおかげで、私は費用を心配せずに喘息の薬を服み続けられるんだよ。」と。